

市町村議会議員研修 [3日間コース]

## 「イノベーションによる地域産業の振興」

### 研修報告書



研修日時 2019（平成31）年 1月15日・16日・17日

研修場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

主催 財団法人 全国市町村研修財団

全国市町村国際文化研修所

報告者 東野 敏弘

## 講義内容

1月15日（火）

12時30分～13時

開講式

13時～15時35分

講義①

「 これからの地域産業のイノベーション 」

一般財団法人日本経済研究所技術事業化支援センター  
エグゼクティブフェロー 島 裕 氏

主な講義内容

- ・ 講師の島氏が体調不良のため、スカイプでの講義となった。
- ・ 少子高齢化、行財政の逼迫など構造的課題を抱える地域における新たな産業創出に向けた取組。
- ・ 固定観念にとらわれないイノベティブな発想と、地域と企業の共創による価値の創造。
- ・ 成長戦略の方向性（Society5.0の実現、全世代型社会保障への改革、地方施策の強化）。

15時50分～17時20分

事例紹介①

「 南山城村版地域密着型イノベーション 」

株式会社南山城代表取締役社長（元南山城村職員）

森本 健次 氏

主な講義内容

南山城村では、「村で暮らし続けること」を実現する企業として、道の駅を運営する株式会社南山城を立ち上げる。

道の駅を地域商社とした産業振興、村民の雇用や生活必需品を提供する場を創出する。その取組を、村づくり推進課長であった森本氏が退職し、株式会社南山城の社長として先頭に立って頑張っている取組の紹介。

17時45分～

参加者の夕食を兼ねた交流会

1月16日（水）

9時25分～12時

**事例紹介②**

「 地域資源と住民をつなぐ東近江市のまちづくり 」

公益財団法人東近江三方よし基金（東近江市森と水政策課）

山口 美知子氏

**主な講演内容**

東近江市では、豊かな自然を地域の財産と考え、地域資源と地域の人材を生かしたまちづくりを進めている。行政・企業・NPO等が連携し、高齢・障がい等のような状態でも安心して暮らせる循環環境型のまちづくりを目指している。

環境基本計画の策定において、環境・産業・社会を繋ぐ取組に重点を置き、地域の中での活動に、地域のお金を調達できないかとの発想で、公益財団法人『東近江三方よし基金』を創設する。

『東近江三方よし基金』は、地域の里山保全や次世代を育てる活動、交流の場づくり、仕事づくり等社会的に意義のある活動を支援し、原資は、市民からの寄付金、休眠預金、遺贈を当てている。

また、公益財団法人『東近江三方よし基金』は、東近江市版SIBにも取り組み、子どもの居場所事業に市民の投資を呼び掛けている。例えば、障がいのある子どもと保護者の未来応援プロジェクト、地域ではぐくむ子ども居場所づくりプロジェクトなど。

13時～14時10分

**講義②**

「 地域ビジネス最前線事例紹介 」

地域再生マネージャー

齊藤 俊幸 氏

**主な講義内容**

地域ビジネスの最前線事例を交えながら、地域の特性を生かした新しい事業、新しい製品の開発と事業化等、自治体が講じるべき施策等について、先進事例紹介。

- ・まちなか研究室「追浜こみゆに亭」（横須賀市）、「ありあけの里」（熊本県荒尾市）、
- ・ごっくん馬路村（高知県馬路村）、
- ・米のブランド化＝

土佐

天空の郷（高知県本山村）、・米焼酎（福島県只見町）

・曾爾米（玄米コーヒーや米焼酎、奈良県曾爾村）など。

14時25分～18時

### 演習①

「 地域資源を生かした事業作成ワークショップ 」

地域再生マネージャー 齊藤 俊幸 氏

主な講義内容

グループの中で、それぞれの自治体の地域産業について意見交換します。  
また、グループごとに「地域資源を生かした新たなビジネスモデル案」を作成する。

- ・どんな地域資源を活用し、どんな地域課題に対応し、どんな事業をするか？
- ・そのために地域内外の誰と、どんな専門家とつなげるのか？
- ・総事業費はいくらか？（投資）
- ・いくらで何をどれぐらい売り、年商はいくらか？
- ・何人雇用があるか？

## 1月17日（木）

9時25分～12時

### 演習②

「 グループ発表・意見交換・講評 」

地域再生マネージャー 齊藤 俊幸 氏

演習②グループ発表

A班—イノベーションによる地域産業の振興（企業誘致）

B班—靴下のブランド化

C班—イノベーションによる地域産業の振興（九谷焼）

D班—鳥取県大山町における内発型雇用創造策

E班—僕たちの町の改善を知ろう！（有田川町のぶどう山椒）

F班—掛川市オリーブ畑アウトドアプロジェクト

13時～14時

### 講義③「 総括講義 」

主な講義内容

数多くの事例紹介を行う。

- ・ 山形県鶴岡市でホテル（スイデンテラス）を創業した山中大介さん（30歳）
- ・ 香港でおにぎり屋（華御結）を創業した西田宗生さん（33歳）
- ・ 佐渡市で日本酒造を事業継承した加登仙一さん（25歳）
- ・ 大崎上島町の塩田後で牡蠣、エビの養殖業を創業した鈴木隆さん（41歳）

14時～

閉校式、研修アンケート記入、閉講

## 「イノベーションによる地域産業の振興」に参加した所感

東野 敏弘

『イノベーションによる地域産業の振興』の研修は、市町職員を対象としたものでしたが、議員も参加することが可能な研修でした。昨年参加された同僚議員が『とても良い研修だった』と話されるのを聞き、また地域産業政策に対する理解を深めたいとの思いで参加しました。

事実、一緒に受講した職員の皆さんは、大変熱心で意欲的だったこともあり、大きな刺激を受けました。また、西脇市にも参考となる内容もあり、ぜひ一般質問等で提案したいと考えています。

イノベーションとは、物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」を創造することです。今回の研修は、地域にあるいくつかの物事・資源・人材等を結びつけ、新たな価値を生み出すことによって、地域経済をどう活性化するかということを目指しています。また、全国の実践例を学ぶとともに、自分たちも演習を通じてイノベーションによる地域産業の振興策を考え出すことを目的にしています。

今回の研修で、特に刺激を受け、参考になったことは、2つの事例紹介でし

た。

事例紹介①「南山城村版地域密着型イノベーション」では、元南山城村職員である森本健次氏が、職員を辞めて株式会社南山城を立ち上げ、地域に密着した連携、協働の手法を具体的に話していただきました。

森本氏は、全国の先進地を直接回り、南山城村の特色である『お茶』をメインにした特産開発に取り組みました。村職員を退職するという不転の決意で取り組んだからこそ、多くの方が協力し、事業としても成功していったと感じました。

事例紹介②「地域資源と住民をつなぐ東近江市のまちづくり」では、環境・経済・社会を結び付け、地域資源と地域の人材を生かしたまちづくりを進める上で、活動の資金となる「三方よし基金」を立ち上げられました。行政・企業・NPO等が連携し、暮らせる循環環境型のまちづくりがよく理解できました。地域資源を生かす取組への投資（支援）を、財政的にも保障するために、「三方よし基金」の果たしている役割、良識ある多くの市民の寄付によって支えられていることがよく分かりました。西脇市においても、市民活動の支援を行う際の資金確保の方策として、検討に値する取組だと感じました。

今回の研修において、全国で成功している地域ビジネスの最前線事例が、数多く紹介されました。その成功事例は、不転の覚悟を持って取り組もうとする『人』がいるかどうかにかかっていると改めて感じました。もしないのであれば、意欲を持った人材の誘致が必要だとも考えさせられました。

講義②「地域ビジネス最前線、事例紹介」では、地域再生マネージャーである齊藤俊幸氏が、地域ビジネスの最前線事例を数多く紹介しながら、地域の特性を生かした新しい事業、新しい製品の開発と事業化等、自治体が講じるべき施策について紹介していただきました。

齊藤氏の講義をもとに、6班に分かれ、グループごとに「地域資源を生かした新たなビジネスモデル案」を作成しました。私たちの班（D班）は、『鳥取県大山町における内発型雇用創造策』をまとめましたので、紹介します。

### **演習『鳥取県大山町における内発型雇用創造策』の紹介**

私が所属したのは、兵庫県新温泉町、宮城県丸森町、鳥取県大山町、島根県川本町の町職員の皆さんと私の5名で、5名の共通するテーマは「地域内資金循環による内発型雇用創造」であった。

グループ討議の結果、『鳥取県大山町における内発型雇用創造策』に決まった。5人で討議しまとめ上げた発表用のレジュメを紹介する。

「イノベーションによる地域産業の振興」発表用レジュメ

班 名	D	氏 名	東野 敏弘	山根 弘之
			山崎 栄一	横田 将希
			横山 達	

1 対象自治体（地域）
・鳥取県大山町
2 現状と課題（1の地域における産業の現状や課題を記入してください。）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公設民営のスキー場が天候不良等による安定運営が見込めず、雇用が安定しない</li> <li>・スキーシーズン以外に営業を行っていないため、営業機会を逃している</li> <li>・地域内にインバウンド旅行者は誘致できているが、宿泊できるような施設がない</li> </ul>
3 地域資源を生かしたビジネスモデル（2を踏まえて）
<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本方針（重点的にどのようなことに取り組むのか。）</li> <li>②取り組み内容</li> <li>③成果指標と目標値（具体的な数値を挙げられる場合は、記入してください。）</li> </ul>
①
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設を整備することにより、スキー場等レジャー客を中心に外貨を稼ぐ仕組みをつくる</li> <li>・当施設を核として、朝市や食事処の集積を図り、雇用の場をつくる</li> <li>・整備に係る費用や、リネン経費等による金額を地域内に落とす</li> </ul>
②
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町有地に30室（1室10坪）の宿泊施設を建設し、運営する</li> <li>・用地外構は地方創生拠点整備交付金で実施、建物はふるさと納税やローカル10000プロジェクト等により資金調達を行う</li> <li>・【建設費】30室×10坪×レンタル費1.4×坪単価60万円 →252,000千円（うち222,000千円は融資）</li> <li>・【収入】30室×宿泊料20,000円×365日×稼働率60% →131,400千円/年</li> <li>・【支出】人件費（正社員3人+パート3人） =24,000千円/年 光熱費500円/室×30室×365日×0.6 =3,280千円/年 リネン1,000円/室×30室×365日×0.6 =6,570千円/年 →33,850千円/年</li> <li>・【収支】97,550千円/年</li> <li>→【法人税】48,775千円</li> <li>→【配当】24,388千円</li> <li>→【留保】24,387千円 →10年で融資償還</li> </ul>
③
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に落ちる金額/年30,000千円</li> </ul>